

速読力養成法の研究

(一試案とその実践データ)

英語科 大西光興

第1章 題目設定の理由

- 〔1〕 資料(1)で明らかな如く本校においては高等学校学習指導要領の規定に基き、全日制普通科B類型を実施しており、英語科は、従って正規の授業として各学年週5時間ずつで、その5時間のうち3時間を Reader、2時間を Grammar and Composition にあてている。
- 〔2〕 学習指導要領（外国語篇）によれば、英語Bにおいては「読むこと」の領域として「語・句・文の意味を直接英語から理解することに習熟させる」とあり、その学習活動の中に「パラグラフなどの大意をつかませる」と示されているが、現状はどうであろうか。本校では、週3時間の Reader の時間は、検定教科書を用いて授業を進めているが、その中での学習活動は、単に読解だけに止まらず、4技能を調和のとれた形で養成するようにしなければならないし、現にそのように努力している。英語の実用的価値から見て、多読の能力が必要な事は言うまでもない。多読には速読力がなければだめなので、授業に何とかして速読の訓練も加える必要がある。ところが4技能を調和的に養成することに加えてさらに速読力の養成を行なうとなると、週3時間では、非常に窮屈である。教科書そのものを、速読力養成のために、そのままの形で用いるのは無理のようである。大部分の生徒にとって、教科書の英文は直読直解をするには、難しすぎる。Rapid Reading 用と称する Lesson は、決して、語い、語法の面で、他より易しくはない。ただ、「筋が面白い」という事で Rapid Reading 用としたように思われる。そこで、速読訓練用には、もっと易しいものを教材として別に選定し、使用しなければならない。さて、教科書以外に速読用テキストを用いて週3時間の中に割り込むとなると、4技能の養成が、時間的に考えて徹底を欠くことになりかねない。従って現状では、多読は専ら生徒の家庭学習にまかせて、休暇後や、定期考査の際に、多読用教材の内容についてのテストを行なって、評価するという方法を取らざるを得ない。生徒には、筋や論旨をつかめばよいから速く読むようにと事前に指導しても、生徒はテストに良い成績を取ろうとして、大変な時間と労力をかけて隅々まで、くわしく読むようである。つまり速読による多読をねらったものが、じっくり時間をかけて精読して来るわけである。
- 〔3〕 それでは、上のような現状を少しでも改善する方法はないのであろうか。結局は、授業の中で速読訓練を行なわなければならないのである。では4領域の調和的訓練を犠牲にすることなく、速読訓練を行なうための条件は何か。
- (1) 短時間で行なえること。
 - (2) 評価しやすいこと。
 - (3) 教材は、直読直解を妨げる語いや語法の難しさのないものであること。
- 以上3条件を満たす方法として、次の章で述べる試案によって実験をし、その結果のデータを示し、分析を試み、より良い速読力養成法を発見する手がかりを得ようとした。

第2章 試案と実験方法

- 〔1〕 試案、第1章〔3〕で述べた3条件を比較的満たし得る教材として、高等学校1年生を対象として、次の本を選定した。

Hill, L. A. : Elementary Stories for Reproduction (Oxford Univ. Press)

この本は本来、作文力養成用なのだが、各ページの英文小話は、中学3年間の学習内容を超える語いも語法も含まず、内容的にそれぞれまとまりがあり、ユーモアに富むものである。各小話は約150語から成り、短時間で生徒に読ませ、直解させるのに適していると判断した。そこでこの本の英文とその下に内容についてのテストを付したプリントを作成し各授業中の短時間をさいて、生徒に行なわせ、そのようなドリルの反覆が速読力をつけるのに役立つか否かを試そうとした。

〔2〕 実験方法

- (1) 実験対象 高等学校1年生(4クラス, 119名)
- (2) 実験日程 4月11日～4月19日 準備
4月20日～5月22日 予備調査
5月23日～9月8日 実験
9月9日～10月2日 実験結果の分析

(3) 方法

{I} 予備調査(高校1年全員を対象として)

(a) 語いテスト(資料2)

本章〔1〕で述べた本の巻末にある基本1000語の中から主として内容語100語を選び、日本語で意味を書かせた。

(b) 英文読書調査(資料2)

中学時代に読んだ、教科書、副読本を除く英文読物の冊数と書名を調べた。

(c) プリテスト(資料3, 4, 5, 6)

本章〔1〕で述べた試案に従ってテストを行なった。まず150語の英文を速読し内容を正確につかむためには、時間をどの位与える必要があるかを調べる目的で、3回に分けて、10分、5分、4分、3分、2分、1分と段々制限時間を少くしてテストを行なった(資料3, 4, 5)。その結果、第3章で述べるように、3分で実施するのが適当と判断したので、4回目は全クラス3分で同一問題を課し、その結果を、実験前の状態と考え、次に述べる実験後のポストテストの結果と比較するためのものとした。

{II} 実験

(a) グループ分け

〔1〕の予備調査から判断して、1, 2組をコントロール・グループ、3, 4組をテスト・グループと決めた。両グループはほぼ等質と考えられる。テスト・グループだけに、プリテストで用いたのと同様の問題を、Reader 毎の授業において3分間(英文を読み、内容をつかんで、解答記入完了まで)行なわせた。この速読訓練テストは英語科スタッフ全員が教材作成にあたり、20回続けた。一方コントロール・グループには、この間、このような特別訓練を全く行なわなかった。

(b) ポスト・テスト(資料7, 8)

高校1年生全員を対象にして次の2つのテストを行なった。

(i) 約150語の英文を3分間で、読み内容をつかみ解答を記入させる。(材料は実験に用いたものと同じ本から取った。)

(ii) 約750語の英文を15分間で、読み内容をつかみ解答を記入させる。(材料は別の本から取った。英文の程度は(i)とほぼ同じと見られる。)

このポストテストによって、速読訓練テストを20回受けたテスト・グループの成績と、コントロール・グループの成績を比較し、効果を見ようとした。

(c) 家庭での速読訓練

第1章で述べた通り、従来、速読力養成の目的で、英文読物を1冊買わせて、家庭で読ませていたが、結局は生徒に精読を強いる結果となっていた。そこで生徒が精読をしないようにしむけるために、精読をするには多すぎる量の読み物を夏休み用として高校1年全員に課すことにした。次の3冊がそうであるが、読む順序を指定した。

第1冊 Anna Sewell : Black Beauty (アトム英文双書) 英文の部分43ページ

第2冊 The Green Looking-Glass (山口書店) 英文の部分65ページ

第3冊 Hugh Lofting : Doctor Dolittles Adventures (高教出版) 英文48ページ

合計英文ページ数 156ページ

夏休み40日を、毎日読むとして、4ページずつ読まなければならない分量である。

(d) 読物理解テスト(資料9)

生徒に夏休み中に読ませた3冊の英文読物のそれぞれの内容について、夏休み後(6月7日)客観テストを行なった。時間は15分間。これによって、生徒がどの程度速読ができたかを、特にテスト・グループとコントロール・グループとで比較をしようとした。

第3章 実験の結果と分析

〔1〕 予 備 調 査

(a) 語いテスト

(第 1 表)

組	平均点	得 点 分 布									計(名)
		90以上	80台	70台	60台	50台	40台	30台	20台	19以下	
1	56.3	1	5	1	8	8	14	2	2	0	41
2	53.7	1	2	4	7	10	9	6	2	0	41
3	54.1	0	4	4	8	9	9	5	2	1	42
4	59.4	2	2	7	8	8	11	2	0	0	40
総 合	55.9	2%	7%	10%	19%	21%	27%	9%	4%	1%	164名 100%

第1表から見て、50点台以下の者が全体の62%を占めている。この事実から逆に考えれば、約6割の生徒は、これから速読訓練用に使用する教材の英文中の単語が半分位しか理解できないであろうと予想される。生徒が予想外に語い力の不足していることをこれで知り得た。

(b) 英文読書調査

(第 2 表)

冊 数	1 組	2 組	3 組	4 組	合 計	%
0	8	14	12	17	51	31
1	13	9	13	6	41	25
2	10	10	5	10	35	21
3	7	4	6	3	20	12
4	1	2	4	3	10	7
5 以上	2	2	2	1	7	4

(代表的書名) <多い順>

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| (1) Aesop's Fables | (6) Reader's Digest Readings |
| (2) Robinson Crusoe | (7) Happy Prince |
| (3) Gulliver's Travels | (8) Andersen's Fairy Tales |
| (4) Arabian Nights | (9) Biographical Stories |
| (5) Fifty Famous Stories | (10) Daddy-Long-Legs |

第2表の結果から、全体の56%が英文読書経験が無いが、ほとんど無いと考えられる。

(c) プリテスト

(第3表)

	時間	組	10点	8点	6点	4点	2点	0点
第1回	10分	1	36名(87.8)%	4名(9.7)%	1名(2.5)%	0(0)%	0	0
	10	2	36(83.7)	7(16.3)	0(0)	0(0)	0	0
	5	3	24(55.8)	15(34.9)	2(4.65)	2(4.65)	0	0
	4	4	24(58.5)	14(34.2)	1(2.3)	2(5)	0	0
第2回	5	1	7(16.7)	28(66.6)	7(16.7)	0(0)	0	0
	5	2	7(16.3)	31(72.0)	5(11.7)	0(0)	0	0
	3	3	5(12.4)	21(48.8)	15(37.2)	2(1.6)	0	0
	4	4	9(22.0)	19(46.3)	13(31.7)	0(0)	0	0
第3回	1	1	0(0)	0(0)	1(2)	16(39)	6(15)	18(44.8)
	2	2	5(12)	16(39)	12(29)	8(20)	0(0)	0(0)
	3	3	14(33)	25(58)	4(9)	0(0)	0(0)	0(0)
	4	4	15(37)	20(49)	6(14)	0(0)	0(0)	0(0)

(a) 読書調査と語いテストの結果から判断して、対象となる生徒が英文読書経験も語いも充分とは言えないので、このような生徒が、約150語の英文を速読し、意味を正確につかむためには、どのくらい時間を必要とするのかを調べた。第3表がその結果である。

(i) 〔第1回〕10分、5分、4分と時間の差をつけて同一問題を行なわせると、10分もかければ、10点(満点)を取る者が85%もあるのに対し、5分では55.9%、4分では58.5%である。5分で実施した場合、10分の場合より正答率がかなり低下しているが、5分の場合も4分の場合も依然として約60%の正答率であるということは、この程度の問題には4分位でよいのではないかと推論できる。

(ii) 〔第2回〕5分、4分、3分で比較した。5分の場合より3分の場合に、正答率に少し低下が見られるが、3分の場合でも、10点と8点の者が全体の61.2%あり、このことから、この程度の英文は3分でも過半数の者には充分速読し内容を正確につかめると考えられる。

(iii) 〔第3回〕念のために、3分、2分、1分で比較してみると、2分で実施した場合、10点を取れる生徒が、3分で実施した場合の約 $\frac{1}{3}$ となる。1分の場合は150語の英文を読み内容をつかんで、解答を記入することは、とても困難だという事がわかる。

以上の結果から、このレベルの英文(150語)を速読し内容を正確につかむためには、少くとも3分は必要と判断した。

〔第4回〕として、全クラス3分で実施した場合第4表のような結果が出た。10点を取った者が、4クラス平均すると49.4%である。つまり、3分間で実施した場合、約半数の生徒が、何らかの読み誤りを犯すことがわかる。これが実験前に於ける150語の英文を3分間で速読し内容をつかみ解答を記入するまでの生徒の力である。

(第 4 表)

時間	組	10 点	8 点	6 点	4 点	2 点	0 点
3 分	1	23名(54.7)%	12名(28.6)%	7名(16.7)%	0名(0)%	0	0
3	2	20 (46.5)	15 (34.9)	4 (9.3)	4 (9.3)	0	0
3	3	26 (60.5)	12 (28.0)	3 (6.5)	2 (5.0)	0	0
3	4	15 (35.7)	17 (40.5)	6 (14.3)	3 (9.5)	0	0

(b) 各グループの状態

実験として、3, 4組をテストグループと決め、そのグループだけに3分間速読訓練テストを毎 Reader, の授業の一部をさいて行なうことにしたが、テスト・グループとコントロール・グループの成績はどうか。

(第 5 表)

テスト名	グループ	平均点	10点と9点	8点と7点	6点と5点	4点と3点	2点と1点
入 試 (英語)	テ ス ト	7.6	15名(18)%	45名(55)%	19名(23)%	4名(4)%	0名(0)%
	コントロール	7.4	6 (7)	50 (59)	23 (29)	6 (5)	0 (0)
3 分 速 読	テ ス ト	8.5	41 (49)	29 (33)	9 (11)	5 (7)	0 (0)
	コントロール	8.6	43 (51)	27 (32)	11 (13)	4 (4)	0 (0)

第5表は42年度本校入試の英語の成績を10点満点に換算したものと、プリテスト第4回目の成績をテストグループ及びコントロール・グループについて表わしたものである。これにより両グループの平均点の差が多くて0.2点なので、両グループはまず等質と見てよいのではないかと判断した。

〔2〕 ポステスト

第6表は、テスト・グループに対して行なった実験的速読訓練の一段落した後において、全員を対象に行なった150語の英文を3分間で読ませ内容をつかませ解答を記入させるテストの結果及びプリテスト4回目の成績を並べて見たものである。

(第 6 表)

グループ	テスト	平均点	10 点	3 点	6 点	4 点	2 点
テ ス ト	プ リ	8.5	41名(49)%	29名(33)%	9名(11)%	5名(7)%	0名(0)%
	ポスト	8.7	43 (52)	30 (36)	10 (11)	1 (1)	0 (0)
コントロール	プ リ	8.6	43 (51)	27 (32)	11 (13)	4 (4)	0 (0)
	ポスト	8.5	41 (49)	28 (34)	13 (15)	1 (1)	1 (1)

この表によって、平均点の違いを見てみると、テストグループの場合はプリテストの時よりポストテストの時にやや向上が見られる。それに対しコントロール・グループはやや下降している。10点を取る率もテストグループでは3%ほど増加しているのに対し、コントロール・グループでは逆に2%の減少が見られる。つまり、わずかながら、テストグループの方が、150語でいどの英文を3分間で速読し、内容を理解し解答するという事に関しては向上が認められる。これは実験として行なった速読訓練の効果と考えて良いだろうか。その点をより明確につかむために、こんどは約750語の英文を用い、15分をかけて、全員にテストして見た。その結果が第7表である。

(第 7 表)

グループ	平均点	100 点	90 点	80 点	70 点	60 点	50 点
テ ス ト	77.4	1名(1)%	17名(21)%	33名(40)%	25名(30)%	5名(6)%	2名(2)%
コントロール	79.1	0 (0)	26 (30)	42 (50)	11 (13)	5 (5)	1 (1)

意外にもコントロール・グループが2点ほど平均点が高い。又、90点以上取った者の割合も、コントロール・グループが8%ほど多い。

このテストは、英文の語数が約750語なので、3分間テスト(150語)の5倍だから時間も5倍かかるものと予想して、15分で実施したが、生徒の3分テストを行なう場合の答案作成過程を観察してみると、ほとんどの生徒が約2分で英文を読み、約1分で解答を書く事を、実験中に知ることができた。750語の15分間テストにおいては、この比率から考えれば、10分間で英文を読むとして、解答記入に5分もかかるはずはない。せいぜい2分でできるはずである。この点の配慮がこのテスト実施に当って欠けていた事を反省している。生徒はせいぜい10分で読めるはずの英文をもう更に3分ばかり時間をかけて読んだものと考えられるので、このテストが、速読テストとして妥当であったか疑問の余地がある。そこで改めてより妥当なテストを直ちに行なうべきであったが、学期末考査も終了し、夏休みに入ったので、行なう機会が得られなかった。

〔3〕 夏休み中の英文読書

40日間にわたる夏休み中に、3冊の英文読物を読ませたが、そのページ数の合計は約160ページに及ぶ。従って1日に4ページ読まなければならない量である。ところが夏休み中はクラブ活動・旅行・他教科の宿題があって、毎日コンスタントに4ページずつ読むのは困難であろう。日によっては10ページも20ページも読まなければ、追いつけない時もある。従って、速読を余儀なくさせられることになる。速読訓練テストの反覆を経験したテストグループの生徒が、大量の英文をこなす力がより勝っているか否かを知る目的で、夏休み後、3冊の本のそれぞれの内容についてテストを全員に課した。その結果が第8表である。

(第 8 表)

グループ	平均点	90点以上	80点台	70点台	60点台	50点台	40点台	39点以下	3冊目
テ ス ト	75.7	11名(13)%	24名(30)%	29名(35)%	14名(17)%	3名(4)%	0名(0)%	1名(1)%	10
コントロール	76.1	10 (12)	35 (41)	19 (23)	15 (18)	3 (3)	1 (4.5)	1 (1.5)	16

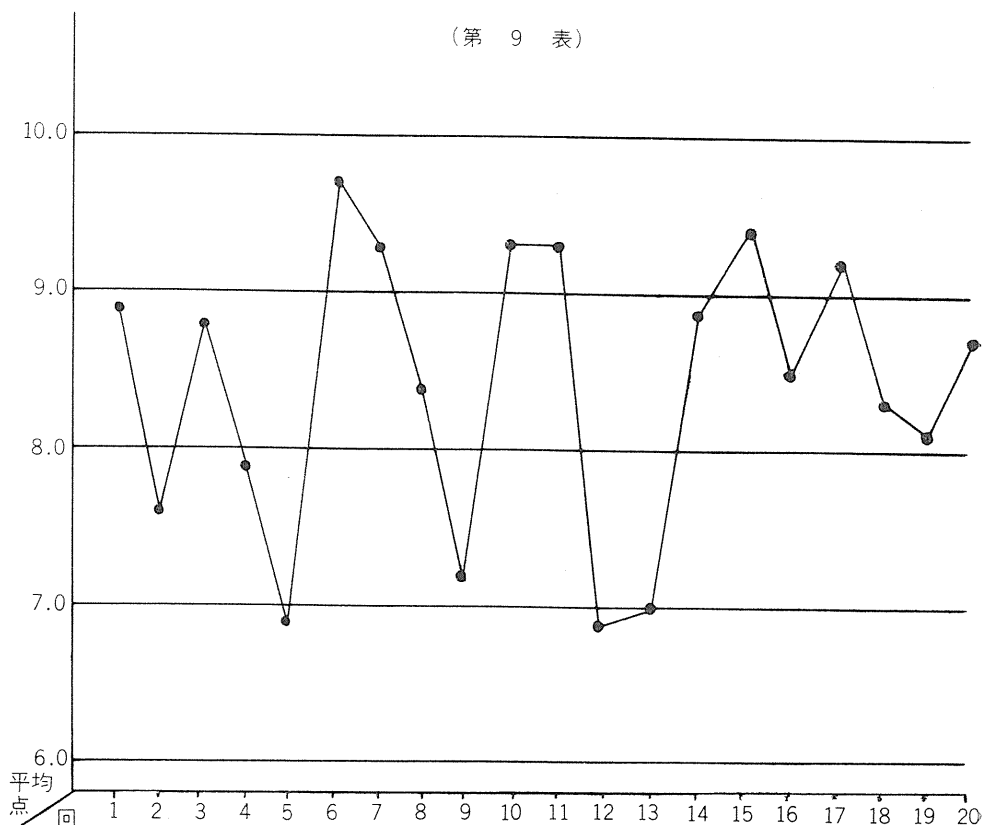
この表から、コントロール・グループがテスト・グループより平均点で0.4点上回っているが、まず、両グループの差がないと考えられる。7割以上の正解ができた者は、テストグループで78%、コントロール・グループで76%である。次に2冊目までしか読み進めなかったと答えた者の人数は、テストグループで10名、コントロール・グループで16名あった。この事実から直ちにテスト・グループに課した速読訓練テストの反覆が、夏休み中の多読に何らかの助けとなったとは言いがたいが、3冊目まで読み進めなかった者の人数の差と7割以上出来た者の率から見て、多少は速読の慣れに差を生じたと考えられるのではないか。

〔4〕 速読訓練テストの成績の推移

テストグループは合計20回の速読訓練テストを受けたわけであるが、各回の成績の推移はどうであろうか。第9表は各回の平均点をグラフにしたものである。

このグラフで見ると、各回の平均点の変動がかなり大きい。つまり問題の難易の差が、同じテキストから作るとしても避けられないことがわかる。ところが、前の5回と中間の10回と後の5回の平均点は、それぞれ8.0、8.5、8.6となっている。しかし難易の差がかなり大きいので、こ

のままで、直ちに、速読力が徐々についているとは断言し難い。そこで毎回とも、個人得点を偏差値に換算し（つまり平均点をすべて50点としたとして）各回の個人個人の成績の推移を見ることにした。テストグループ82名全員について1人1人検討するのは大変手数がかかるので、テストグループから無作為に10名抽出し、その10名について、各回の偏差値を示したものが第10表である。



(第 10 表)

生徒	回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	前5回平均	後5回平均
A		60	67	55	52	53	54	55	63	59	54	31	56	53	56	44	44	56	58	60	43	57.4	53.0
B		56	67	55	60	44	54	42	47	52	14	56	56	53	56	56	56	56	46	52	43	56.4	50.6
C		60	54	55	52	53	54	55	63	52	54	56	56	64	56	44	56	56	46	60	60	54.8	55.6
D		60	54	55	52	53	54	55	47	44	54	56	44	42	56	56	56	36	35	60	43	54.8	46.0
E		60	54	55	60	53	54	55	47	59	54	56	56	53	56	56	56	56	58	60	60	56.4	58.0
F		57	52	49	49	48	52	55	62	63	58	35	48	46	56	56	39	57	50	60	58	51.5	52.8
G		57	52	17	49	48	52	55	12	47	58	54	60	46	56	56	49	43	50	60	58	44.6	52.0
H		57	52	38	49	48	52	55	47	63	58	54	48	46	56	16	39	57	63	38	58	48.8	51.0
I		57	52	49	49	48	52	55	47	47	58	54	60	58	56	56	39	57	63	60	58	51.0	55.4
J		53	37	60	16	48	34	55	47	55	58	54	36	70	35	56	39	43	37	38	35	40.8	38.4

この表の数字の動きを見ると、どの生徒も、なめらかに向上や下降をしているのではなくかなりの変動がある。前の5回（第1回～第5回）の平均と後の5回（第16回～20第回）の平均を比較してみると、

向上していると考えられるもの C, E, F, G, H, I

向上が認められない者 A, B, D, J

この事実からは、テストグループの中の約60%の生徒が、速読訓練の積み重ねによって速読力を増したのではないかと推測できる。つまり速読訓練テストの反覆が速読力養成に役立つか否かは、20回これを行なった限りに於ては、役立つ可能性がやや大きいのではないかと考えられる。しかしこれだけでの速断は禁物である。英語の総合的学力が速読力にどのような関連を持っているのか見なければならない。

〔5〕 英語の総合力と速読力の関連

第11表はテストグループから無作為抽出した10名について、20回の速読訓練テストの各回の偏差値の合計を20で除したものと、入試の英語の成績——高等学校1年生の1学期の英語の総合力として最も信頼し得るものと考えた——の偏差値の比較表である。この表によれば、速読の成績が総合の成績を上回っているものがA, C, G, H, Iの5名、逆の者がB, D, E, F, Jの5名である。

このことから、英語総合力の速読力に対する関係は50%位であろうと推定される。しかし両成績の差を見てみると、速読力の成績が、総合力の成績より上回っているのが、逆の場合よりやや

(第 11 表)

	速読訓練テスト20回の平均	入試（英語）の成績
A	54	44
B	51	53
C	55	53
D	51	53
E	56	62
F	53	60
G	52	32
H	50	46
I	54	53
J	45	46

大きいのである。平均すると4点近い開きがある。このことから、入学当初速読力が少くとも訓練によって速読力を増し得る可能性を示している。両者が50%の関連を持つ事実は、速読力養成が単にその為のみの訓練に終始しては効果の無い事を物語っている。

〔6〕 語い力と速読力の関連

語い力が速読のための必須条件であることは想像に難くないが、果してそうであろうか。

(第 12 表)

語い力>速読力	20 名	24.4%
語い力<速読力	27 名	33.0%
語い力≒速読力	35 名	42.6%

第12表は、予備調査で実施した語いテストの成績を偏差値に換算した点数と、速読訓練のテストの初めの3回の偏差値の平均点を比較することによって、語い力と速読力の関連を見ようとするものである。この表で≒は、差が5点以内であることを示す。この結果から判断して、≒の部類が42.6%と他の場合より高率であることから、語い力と速読力にかなり高い相関度があることがわかる。次に語い力に比して、速読力が上回っている者が多いが、これは、単語の意味を文の

前後関係からかなり類推できる能力がすでにあるものと考えられる。語い力に比して速読力が劣る者が全体の $\frac{1}{4}$ ほどいるが、そのような生徒に対してこそ、今後特に速読訓練をしていかなければならない。

第4章 結 び と 反 省

英語力はその実用的方面から見た場合、多読能力の必要な事は今更言うまでもない。多読にはどうしても速読力がなければならない。ところが、現状では授業の中で速読力を養成するための訓練が行ないにくい。そこで、4技能の調和的発達をはかる目標を持つ授業の中で実行可能な速読力養成のための訓練として、短時間(3分間)を割いて、速読訓練テストを試案として実施して見た。準備や学校行事の関係で結局20回しか、この訓練を行ない得なかったが、得られた資料を12の表で示した。そこから判断し得る事柄をまとめると次の通りである。

- (1) 高校1年になったばかりの段階では、語い、英文読書経験共に不十分である。
- (2) 150語ていどの英文を読み、正確に内容をつかむには3分位が適当である。
- (3) 速読訓練テスト(毎回3分)を20回受けた生徒は、同様の3分間テストにおいては、そうでない生徒よりやや良い成績を挙げている。
- (4) 750語の英文を15分で読ませ、内容を理解して解答を書くテストでは、逆にコントロール・グループの成績が少し良い。
- (5) 夏休み中の読物の内容理解テストでは、テストグループもコントロール・グループも平均点にほとんど差がない。しかし、3冊目まで読み進めなかった生徒の数はコントロール・グループに明らかに多い。
- (6) テスト・グループの生徒が速読訓練テストによって回を追うごとに成績の向上をしているだけでなく、かなりの上下がある。
- (7) 無作為抽出によって推測すれば実験の始めと終りの偏差値同志の比較によって、少し成績の向上が見られる生徒の割合がそうでない生徒よりやや多いに見える。
- (8) 英語総合力の速読力の相関関係はかなりあるが、やや速読力が勝っているかに見える。
- (9) 語い力と速読力の相関度もかなり高いが、速読力が語い力を上回っているものもかなり多い。

以上の諸事実によって、「3分間の速読訓練の反覆によって速読力を養成する」という試案が果して効果的か否かは、未だ結論できないが、これをもっと回数多く徹底的に行なえば、効果を挙げられるのではないかと思われる。

しかし速読力は語い力のみならず、英語の総合学力との関連が大きいから、単に速読力養成とは言っても、種々のファクターが複雑にからまり合って、単純な方法(この試案のような)だけでは大きい効果を期待できないであろう。そこで、今後は、この試案に更に検討を加え、英語の授業全体(Reader も Grammar も含めて)を通して、有機的に速読力養成がなし得られるように全面的に工夫をして行くつもりである。(終)

資料 1

高等学校

教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年	計
国語	現代国語	7	3	2	2	15 (*2)
	古典乙Ⅰ	5	2	2	(*2) 3	
	古典乙Ⅱ	3			*2	
社会	倫理・社会	2		2		16
	政治・経済	3			3	
	日本史	3			3	
	世界史B	4		3	1	
	物理B	4	4			
数学	数学Ⅰ	5	5	(*2)		15 (*2)
	数学ⅡB	5		5		
	数学Ⅲ	5			*5	
理科	物理B	5		3	2	15
	化学B	4	4			
	生物学	4	2	3		
	地学	2			2	
保健体育	体育	9	4	3	2	11
	保健	2		1	1	
芸術	音楽Ⅰ	2	2			4
	美術Ⅰ	2				
	書道Ⅰ	2				
	工芸Ⅰ	2				
	音楽Ⅱ	2		2		
	美術Ⅱ	2				
	書道Ⅱ	2				
	工芸Ⅱ	2				
外国語	英語B	15	5	(*2) 5	5	15 (*2)
農業	農学	2	2			2
小計(週時間数)			33	33	29	95
特別教育活動(ホーム・ルーム)			1	1	1	3
合計(週時間数)			34	34	30	98

(備考)

- (1) *印のない教科・科目(絶対必修を含めた普通必修科目と学校で定めた必修科目)の単位時間数は、すべての生徒が、これを履修しなければならない。
 - (2) 芸術は第一学年と第二学年において、音楽、美術、書道、工芸の中から一科目を選択履修し修得しなければならない。
 - (3) 農学は本校の特色の一つとして置かれている。
 - (4) 第二学年で(*2)の印で示されている教科・科目の単位時間数はその教科・科目の第一学年の内容終了後学力充足のために置かれたものである。生徒は、三科目のうちから、一科目を選択履修することができる。
 - (5) 第三学年で*印の単位時間数で示されている教科・科目はすべての生徒が履修することができる。
 - (6) 第三学年で、この表に示されている教科・科目の単位時間数の他に、学力充足のために課外補習を行なうことがある。
 - (7) 第二外国語は課外で行なう。
- 〔参考：修得すべき単位数85(卒業資格単位数85以上)
〔指導要領の改訂に伴い、昭和38年度より実施〕

資料 2

accept	accident	account	address
aeroplane	although	angry	arrive
asleep	attack	avoid	bake
bragain	battle	beach	beard
belong	besides	bite	bitter
blood	borrow	bottom	branch
brave	bunch	careless	carriage

- ロ. 夕方まで寝室で遊ばせた。
- ハ. 1時間昼寝をさせようと寝室へつれて行った。
- ニ. 彼の寝室を掃除させた。
- ホ. 1時間たってから寝室に行かせた。
- 問2. ある日の午後、ビリーの母親は自分の寝室へ何をしに行ったか。
- イ. 本を読みに
- ロ. ぬい物をしに
- ハ. 掃除をしに
- ニ. 昼寝をしに
- ホ. ビリーにお話をしてやるために
- 問3. その10分後に彼女は何を聞いたか。
- イ. ビリーが歌を歌っているのを聞いた。
- ロ. ビリーがドアを開けて出て行くのを
- ハ. ビリーが階段をトントンと上って来るのを
- ニ. ビリーがさわいでいるのを
- ホ. ビリーがいびきをかいているのを
- 問4. 彼女は、ビリーの寝室へ行って何を見たか。
- イ. ビリーがさわいでいるのを
- ロ. ビリーがズボンをぬいで寝ているのを
- ハ. ビリーが居なくてズボンがベットの上にあるのを
- ニ. ビリーがズボンをはいたまま寝ているのを
- ホ. ビリーがズボンをはいて寝ていないのを
- 問5. 彼女がビリーを呼んだら、だれが返事をしたか。
- イ. ビリー
- ロ. やおやさん
- ハ. 通行人
- ニ. ズボンをはいていない人
- ホ. おこった人

(答)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5

Class No. Name

資 料 4

An artist went to a beautiful part of the country for a holiday, and stayed with a farmer. Every day he went out with his paints and painted from morning to evening, and then when it got dark, he went back to the farm and had a good dinner before he went to bed.

At the end of his holiday he wanted to pay the farmer, but the farmer said, "No, I do not want money……but give me one of your paintings. What is money? In a week it will all be finished, but yor painting will still be here."

The painter was very pleased and thanked the farmer for saying such kind things about his paintings.

The farmer smiled and answered, "It is not that. I have a son in London. He wants to become an artist. When he comes here next month, I will show him your picture, and then he will not want to be an artist any more, I think."

(問題) 次のイ～ヌの中から上の文の内容と合っているものを5つ選びだし、その記号をイ、ロ、ハ順に解答らんに書きなさい。

- イ. その絵かきは好んで田園の風景をかいた。
- ロ. その絵かきの絵は農夫の目にもりっぱなものであった。
- ハ. 農夫はその絵にほれこんで、1枚ほしいと言った。
- ニ. その絵かきは食事のために農夫の家に立ち寄った。
- ホ. 絵かきは世話になった代を支払いたいと言った。
- ヘ. 農夫は「お金なんかすぐなくなる。それより、あなたの絵を下さい」と言った。
- ト. 絵かきは自分の絵を農夫が高く評価してくれたと思って喜んだ。
- チ. 絵かきはとても仕事熱心であった。
- リ. 農夫の息子は絵かきになりたがっていた。
- ヌ. 農夫は自分の息子も絵かきにしたいと思った。

(解答欄)

--	--	--	--	--

Class No. Name

資 料 5

Mrs Brown had a small garden behind her house, and in the spring she planted some vegetables in it. She looked after them very carefully, and when the summer came, they looked very nice.

One evening Mrs Brown looked at her vegetables and said, "Tomorrow I am going to pick them, and then we can eat them."

But early the next morning, her son ran into the kitchen and shouted, "Mother, Mother! Come quickly! Our neighbour's ducks are in the garden and they are eating our vegetables!"

Mrs Brown ran out, but it was too late! All the vegetables were finished! Mrs Brown cried, and her neighbour was very sorry, but that was the end of the vegetables.

Then a few days before Christmas, the neighbour brought Mrs Brown a parcel. In it was a beautiful, fat duck, and on it was a piece of paper with the words, "Enjoy your vegetables!"

〔問〕

1. ブラウン夫人はどこに何を植え、またそれをどうしたのか。
 - イ. ブラウン夫人は裏庭に果実を春に植えて、それを夏に楽しんで眺めた。
 - ロ. ブラウン夫人は家のうしろの小さな庭に春、何本かの野菜を植えて毎日じっと眺めた。
 - ハ. ブラウン夫人は家のうしろの小さな庭に春、何本かの野菜を植えて大変ていねいにそれを世話した。
 - ニ. ブラウン夫人は家の裏庭に草花を植え取られないかと大変注意した。
2. 夏に事情はどうなったか。
 - イ. 夏になって夫人も子供も大変素敵な顔をした。

- ロ. 夏になって夫人一家は大変満足して眺めた。
 ハ. 夏がきた時、その野菜は大変見事に見えた。
 ニ. 夏がきた時、家も野菜もきれいに見えた。
3. ある夕方夫人は何と言ったか。
 イ. 明日、私はそれを売って、それからそれを食べよう。
 ロ. 明日、私はその野菜を食べるために集めよう。
 ハ. 明日、私はそれを集めて食べよう。
 ニ. 明日、私はその野菜をつもうとしている。そうすればそれを食べることができる。
4. 子供が翌朝走って来て何と言ったか。
 イ. お母さん大変だ、隣のにわとりが野菜をみんな食べちゃったよ。
 ロ. お母さん早くいらっしゃい、お隣のアヒルが庭にいて私達の野菜を食べているよ。
 ハ. お母さん早くいらっしゃい。隣のひよこが庭に侵入して野菜を食べるところだよ。
 ニ. お母さん早く出ていらっしゃい。隣の七面鳥が庭にとびこんで野菜を食べようとしているよ。
5. クリスマスのお祝いに隣人は何を持って来たか。
 イ. 包の中にはきれいな七面鳥と野菜を包んだ一枚の紙があった。
 ロ. 包の中にはきれいな美味しそうなにわとりと「あなたの野菜を育てて下さい」と書いた一枚の紙があった。
 ハ. 包の中には一つのきれいな太ったアヒルと「野菜をどうも有難う」と書いた一枚の紙があった。
 ニ. 包の中には一つのきれいな太ったアヒルと「あなたの野菜を召し上って下さい」と言う一枚の紙がその上にあった。

(答)

1	2	3	4	5

Class No. Name

資 料 6

The lights were red, so the old man stopped his car and waited for them to change to green. While he was waiting, a police car came up behind him, hit his car hard in the back and stopped.

There were two policemen in the police car, and they were very surprised and glad when the old man got out of his car and walked towards them without any trouble after such an accident. He was over 70 years old.

The old man came to the door of the police car, smiled kindly, and said, "Tell me, young man, how do you stop this car when the lights are red and I am not here?"

〔問題〕 上の文の内容にあうものを下のそれぞれのイ～ホの中から選びなさい。

1. 老人は車をとめて

- イ 信号が緑にかわるのを待った。
 ロ 警官の車が通り過ぎるのを待った。
 ハ 警官が車からおりてくるのを待った。
 ニ 車の修理のできるのを待った。
 ホ 車が緑に塗りがえられるのを待った。

2. 警官の車は老人の車の
- イ すぐ前にあった。
 - ロ すぐうしろにあった。
 - ハ 横にあった。
 - ニ はるか前方にあった。
 - ホ はるか後方にあった。
3. 老人はその事故で
- イ 負傷した。
 - ロ 負傷しなかったがカンカンになった。
 - ハ 少しも騒がなかった。
 - ニ 警官にしばられた。
 - ホ うまい言葉で警官に弁解した。
4. 警官の驚いた理由は
- イ その男があまりの老人だったから。
 - ロ 老人がよろよろと車からおりて来たから。
 - ハ 老人がケロリとして車から出て来たから
 - ニ 車がひどくこわれたから
 - ホ 老人が自分の上役だったから。
5. 老人は警官に言った
- イ 「私のいないところで事故を起してくれ」と。
 - ロ 「赤信号のところにいるわけでもないのになぜ私の車をとめるのか」と。
 - ハ 「赤信号でしかも私の車がいないとき、どうやって君の車をとめるつもりかね」と。
 - ニ 「赤信号でとまっている私の車にどうして止まれと言うのか」と。

1	2	3	4	5

Class No. Name

資 料 7

One day Nasreddin went to a big dinner party. He was wearing old clothes, and when he came in, nobody looked at him and nobody gave him a seat at a table, So Nasreddin went home, put on his best clothes, and then went back to the party. The host at once got up and came to meet him. He took him to the best table, gave him a good seat, and offered him the best dishes.

Nasreddin put his coat in the food and said, "Eat, coat!"

The other guests were very surprised and said, "What are you doing?"

Nasreddin answered, "I was inviting my coat to eat. When I was wearing my old clothes, nobody looked at me or offered me food or drink. Then I went home and came back in these clothes, and you gave me the best food and drink. So you gave me these things for my clothes, not for myself."

〔問〕 上文の内容と一致しているものを選びなさい。

(1) Nasreddin が古い服を着て行くと

ア. みんなが彼をじろじろ見た。

- イ みんなが彼に席をあけた。
- ウ だれも彼を見ようとしなかった。
- エ だれも彼に食べものをすすめなかった。

(2) Nasreddin が最上の服を着て行くと

- ア みんなが彼をじろじろ見た。
- イ みんなが立って彼のところへ来た。
- ウ 主人が彼にいちばんのごちそうを提供した。
- エ だれも彼に目もくれなかった。

(3) Nasreddin は食卓に向かうと

- ア 上衣をぬいで食事をした。
- イ 上衣を食べるものの中にひたした。
- ウ 上衣を着て食事をした。
- エ 上衣に食べものをくっつけた。

(4) 他の客がおどろいたのは

- ア Nasreddin が古い服を着ていたから。
- イ Nasreddin が最上の服を着ていたから。
- ウ Nasreddin が上衣を食べろと言ったから。
- エ Nasreddin が上衣を食べものにひたしたから。

(5) それで、Nasreddin は自分の行動についてどう説明したか。

- ア 古い服の代りに最良の服を着て来たら、ごちそうを出してくれたという事は、食事を与えられたのは自分ではなくて、新しい服に対してなんだと思った。
- イ 古い服ならともかく、最良の服は食事中に汚れるといけなかったから上着をぬいたのです。
- ウ 最良の服を着た自分がとても立派に見えるだろうと思って新しい上着が目立つようにバリッと着込んでから食事をしたのです。
- エ 私は変り者なので、みんなを驚かせようと思って、わざと最良の上着の中に食べ物を入れたのです。

(答)

1	2	3	4	5

Class No. Name

資 料 8

There are many rich people in this part of the country because gold was once found here. I was only a small child at the time but I can still remember everything well.

One day a man was walking along the banks of the River Sarwan. He saw something in the water. It was a small piece of gold.....and there were other pieces like it in the water. Some were big, some were small. The man who found these pieces of gold in the river became a rich man at once. But that was not the end of the matter. In a little time everybody was talking of only one thing: Gold!

Everyone wanted to be rich, like the man who found the pieces of gold in the river. Men came from everywhere to look for gold. They bought all the ground near the bank

of the river. They made big holes in it, trying to find more gold. Some men found a lot; other found none at all.

Many of those who came here were bad men. They had guns. When they were angry or had too much to drink, they made a lot of trouble. Good men were afraid of them but they could do nothing. Our town was not the same place as before. It became bigger and richer but for a long time it did not have a good name because of the bad man who came there to find gold.

Peter Fullerton was one of those who came to find gold. He was a good man. He did not have a gun but he was afraid of no one. He was a quiet man who worked hard and did not speak much. He bought nearly the last piece of ground. It was a long way from the river so no one else wanted to buy it. But Peter paid all his money for it.

He worked hard month after month until his ground was full of holes. But he never found one piece of gold. The men who had the ground next to him found some gold but Peter found nothing.

After six months he had no more money to buy even bread. He was a poor man, with only a piece of ground that no one wanted to buy from him. He was ready to leave and go to work in another place.

Then one night, just before he was going to leave, it began to rain hard. It rained for three days and three nights. When at last the rain stopped, Peter came out of his small wooden house and looked at his piece of ground. It did not look the same now. The holes were not there any more. But everywhere there were small plants.

"There may be no gold here," Peter said, "but this ground is rich. I can grow flowers and I can sell these flowers. The women in this town have money now. They have beautiful houses and they will want flowers to put in their houses. If I grow good flowers here, I will make money too. One day I may be a rich man like the others."

So Peter began to grow flowers. Again he worked hard for many months. Sometimes he had little to eat but some kind friends helped him. Soon his piece of ground was covered with beautiful flowers.

When these grew big, he cut them and took them to the town.

"We've never seen beautiful flowers like these before," all the rich women said. They were ready to pay good money for them, to make their homes more beautiful.

Later Peter was able to buy more fields until he owned all the ground near the river. People talked about his flowers all over the country. Soon he was asked to send them by train to cities far away. After five years he was a rich man.

He married a girl who loved flowers too and they had three sons. Peter himself goes into the fields every day to see the flowers that made him a rich and happy man.

"I was the only man who found true gold here," he often says. "The others took their gold out of the ground and went away. But my gold is still here!"

〔問〕 上記の英文を読んで、その内容と一致しているものを10こ選び、イ、ロ、ハ順に解答らんに記入しなさい。

イ 私の住んでいる所は人口が多い。

ロ この地域に金持が多いのは、皆よく働くからだ。

- ハ ある日ある男が道で金をみつけた。
- ニ はじめに見つかった金^{きん}は川の中にあった。
- ホ 金^{きん}には大きいものも小さいものもあった。
- ヘ 金持になった人達は、見つけた金^{きん}を元手に、働いて富を得た。
- ト しばらくの間、人々は金^{きん}の話ばかりした。
- チ 金^{きん}を見つけようと、いたるところから人々が集って来た。
- リ 金^{きん}を求めて来た人々は、川を買いとった。
- ス 金^{きん}を求めて来た人々は、川岸の近くの土地に大きな穴を掘った。
- ル 穴を掘っても金^{きん}をまったく見つけられない人もいた。
- ヲ 金^{きん}を求めてこの土地に来た人々は悪人ばかりであった。
- ワ 金^{きん}を求めてこの土地に来た人々の中には、いざこざを起すものもいた。
- カ この土地に来た者は銃を持つ事を許された。
- ヨ この土地はしばらくの間、評判が悪くなった。
- タ Peter Fullerton は善人で、他の連中を、こわがった。
- レ Peter Fullerton はおとなしかったが、銃だけは持っていた。
- ソ Peter Fullerton は気軽に、だれとでも話した。
- ツ Peter Fullerton は余っている土地をほとんど全部買い取った。
- ネ Peter Fullerton の買い取った土地は川に近く、だれもが欲しがっていた。
- ナ Peter Fullerton は、いっぱい穴を掘った。
- ラ 1年後に Peter Fullerton はパンをかう^{かう}金もなくなった。
- ム 金がなくなっても Peter Fullerton は土地を離れようとしなかった。
- ウ Peter Fullerton は土地を離れようとしたが、三日三晩、雨が降ったので、とどまった。
- キ 雨が止んだ後、Peter Fullerton は一塊の土くれを拾ってながめた。
- ノ 雨のあがった後には、金塊がいっぱい見られた。
- オ Peter Fullerton は花を栽培しようと決めた。
- ク Peter Fullerton が困っても、だれも助けてくれなかった。
- ヤ Peter Fullerton は自分の家で花を売った。
- マ 金持の家の婦人たちは、自分の家でも花を植えようと、花を買いこんだ。
- ケ Peter Fullerton は川の近くの土地を全部所有した。
- フ Peter Fullerton が成功するまでには結局10年近くかかった。
- コ Peter Fullerton は、1人の娘と3人の息子を持った。
- エ Peter Fullerton は今でも毎日、花の手入れをするために畠に行く。
- テ Peter Fullerton はこの土地で本当の金を見つけたのは、自分だと言っている。

解 答

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

組 番

氏
名

資 料 9

英文読書テスト

〔A〕 Black Beauty の内容と合っているものを次のイ～ヲから5つ選び、記号を解答らんに入せよ。

- イ Black Beauty は、はじめ Pet と呼ばれていた。
- ロ 地主の息子 George Gordon は狩猟中に落馬して、それがもとで死んだ。
- ハ 狩猟の時死んだ Rob Roy という馬は Black Beauty の父であった。
- ニ Mrs Gordon が病気になった時、Black Beauty は全力をふりしぼって医者運んだ。
- ホ Gordon 家が引越す時、Black Beauty は牧師の家に引きとられることになった。
- へ York の Black Beauty に対する扱いは残酷であった。
- ト Lady Anne は病身であったが、馬を見るのが好きで、Black Beauty を Black Auster と名付けた。
- チ Lizzie と Black Beauty が道で乱暴な馬に会った時、両者共勇敢に戦って、その乱暴な馬をけり倒してしまった。
- リ Reuben Smith は馬を扱うにかけては一流であったが、酒を飲むと乱暴をした。
- ヌ Black Beauty は Reuben を落馬させて死なせたので、罰として、ひずめを割られた。
- ル Black Beauty は農耕馬として売られた。
- ヲ Black Beauty はロンドンで馬車を引いた。

解 答

--	--	--	--	--

Class No. Name

〔B I〕 The Green Looking-Glass の内容と一致しているものを選び、解答らんを必要なだけ使って記号で答えよ。

- イ Latimore は Arnside House を安価だから買った。
- ロ Mrs. Cullen にとって Arnside House で働くのは始めてであった。
- ハ Mrs Cullen は朝来て、夜帰宅した。
- ニ 不思議な鏡が出て来たのは、寝室であった。
- ホ Mrs Cullen が鏡を見てびっくりしたのは、鏡に何も写っていないからである。
- へ Latimore はその鏡に自分の姿だけ写っていないのを見て驚いた。
- ト その鏡には緑色の柄がついていた。
- チ 彼が、その鏡で庭を写して見たら、木も花も写っていた。
- リ Latimore は Brighton でその気味の悪い鏡を7ポンドで売った。
- ヌ その鏡は翌日同時刻の姿を写す不思議な鏡であった。
- ル その鏡をこわしたのは Benson であった。

〔B II〕 Who killed Webster? の内容と一致するものを選び、解答欄を必要なだけ使って、記号で記入せよ。

- イ Webster は全身まひであったが、汽車の通る音を聞くのが好きであった。
- ロ Webster は友人がなく、また彼を訪ねる人もなかった。
- ハ Webster はある夜何者かに首をしめられて殺された。
- ニ Webster の死体をはじめに発見したのは Hammond であった。
- ホ Hammond は妻に電話をかけて、今夜は仕事が忙しくて家に帰れないと言った。
- へ Webster は Hammond に土地を売って欲しいと言われたことがある。

- ト Wilson はその日 Webster が殺される前に、外出した。
 チ Webster の着物に付いていたしみは血であることが判明した。
 リ Wilson に盗癖のあることを Webster は知って、Wilson をそのことでおどしていた。

〔問〕 結局、Webster 殺しの犯人はだれか。

解答 I

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

II

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

犯 人 = _____

Class No. Name

〔C〕 Doctor Dolittle's Adventures の内容と一致するものをイ～ヌから選び、イ、ロ、ハ順に解答らんを必要なだけ用いて記入せよ。

- イ Doctor と Tommy Stabbin が雑種犬のクラブに入って行った時、dining room では犬が皆食事をしていた。
 ロ この物語の主人公の the Sea dog がこのクラブに入ったのは自由な生活を望んだからである。
 ハ Snooky が the Sea Dog を大工の仕事部屋に入れたのは、この犬を自分だけのペットにしようとしたからである。
 ニ the Sea Dog が船の鐘を鳴らしたのは Snooky を呼ぼうとしたから。
 ホ the Sea Dcg がいなくなった時、船員たちは、この犬がおぼれ死んだと思った。
 ヘ 船が難波したのは、機械の一部が故障したからである。
 ト 難波のあと、島で Snooky と the Sea Dog が最初に食べたものは木の実であった。
 チ the Sea Dog は救命ボートで島から離れるのは危険だと思った。
 リ Snooky は the Sea Dog を島において、いったん単身で海に出た。
 テ Snooky と the Sea Dog は難波した船からのがれた他の船員たちによって島から救出された。

解 答

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

Class No. Name